

令和3年9月6日（月曜日）

足立参院議員

8月豪雨災害の被災地視察 砂防施設の減災効果実感

8月中旬の豪雨災害で被災した地域を視察した自民党の足立敏之参院議員が建設専門紙の取材に応じ、河



佐賀県内の被災現場を視察する足立氏（左から2人目）

川・砂防施設が被害の軽減に役立ったことを強調した。佐賀県内で建設中の砂防堰堤が大量の流出土砂をため込んだ事例などを紹介。流域のあらゆる関係者が協働してハード・ソフト対策を講じる「流域治水」の必要性を改めて提唱した。国が昨年12月に決定した「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（2021～25年度）のさらなる推進も訴えた。

8月下旬から今月上旬にかけて被害が大きかった佐賀、福岡、富山、長野、岐阜などの各県内の被災箇所

を順次視察。それぞれ国土交通省や地方自治体、建設業団体の関係者らと意見交換も行い、被害状況や今後の課題などを確認。多くの地域で整備済みもしくは整備中の河川施設や砂防施設が地域の防災・減災に貢献したことが明らかになったという。

足立氏は、佐賀県が佐賀市で建設中の金立川砂防堰堤が大量の流域土砂をため込んだ事例を紹介。関東から東北の広い範囲にかけて大雨による浸水被害を招いた19年の台風19号が発生した際、本格的な運用を始める前に大量の水をため込んだ八ツ場ダム（群馬県長野原町）に見立て「八ツ場ダムの砂防ダム版だ」との見解を示した。